

訓練

◆総合事故復旧訓練

列車事故など緊急時における対応力の強化を目的とした訓練を毎年実施しています。平成22年10月に、寝屋川車庫において、「列車通過直前の踏切道に自動車が突然進入してきた」との想定で訓練を実施しました。

近畿運輸局・警察署・消防署の協力のもとで社長以下合計約260人が参加し、人命救助・避難誘導・二次災害防止・正確な情報伝達・事故列車の救援収容などを行いました。当日は約100人のお客さまを招待し、訓練の様子を見学していただきました。



総合事故復旧訓練の様子

◆地下線内火災想定訓練

運転士・車掌・駅係員を対象に地下線内車両火災想定訓練を実施しています。平成22年5月および10月に、京都地下線を走行中に「車両から発煙した」ことを想定して、営業運転終了



地下線内火災想定訓練

後、実際に列車を走行させ、お客さまの救出・避難誘導・消火作業が迅速・的確に行えるよう、緊迫した訓練により係員の冷静な判断力や連携を養っています。

また同時に地下駅の消火設備や、途中線路に設置されている防災設備を実際に歩いて操作するなど、万一の非常事態に備えています。

◆総合防災訓練

天変地異や災害などに対し、適切に対応できる能力の向上を目的とした訓練を毎年実施しています。平成23年2月に、東南海・南海地震の発生を想定した訓練を実施しました。136人が参加し、本社に対策本部を設置、お客さまの避難誘導と運行状況の案内、現場の設備点検、画像伝送も含めた情報伝達を行いました。（詳細は【特集P.6~7】をご参照ください。）

◆脱線復旧訓練

車両部門では、不測の事故などで車両が脱線した場合に備え、緊急自動車を寝屋川・淀車庫に配置しています。また、脱線復旧訓練を年間3回実施しています。その内の1回は、車軸が不転となった場合の復旧訓練を実施するなど、不慮の事故に対しても技術の継承をしています。また、緊急時連絡体制を確立し夜間・休日でも速やかに対応できるよう、非常呼集訓練も実施しています。



脱線復旧訓練

◆鋼索線における事故想定訓練

男山鋼索線においては、不測の事態・事故に備え、お客さまの避難誘導をはじめとする訓練を定期的に行っています。平成22年12月に八幡市駅において実施しました。



鋼索の点検・整備